

ダニエル・ダイカワ／大川ダニエル

Daniel DAIKAWA

所属：西武鉄道→コクド

ポジション：DF

生年月日：1971年7月30日

出生地：アメリカ

【プロフィール】日系人プレーヤー。1991-1992シーズンからマイアミ大学で4シーズンプレーした後、西武鉄道入り。1997年12月に帰化が認められ晴れて日本人に。1998年の長野オリンピック出場はなかったが、同年の世界選手権で日本代表入りを果たす。世界選手権に4回出場した他、冬季アジア大会などにも出場している。世界選手権は、18試合3アシスト3ポイント。西武の後、2003-2004シーズンはコクド（アジアリーグを含む）、2004-2005シーズンは王子イーグルス（アジアリーグ）でプレーした。現役引退後はNAHL（米国ジュニアリーグ）所属の複数のチームでGM兼監督、監督、コーチなどを務めた。

【レビュー】性格は良く、一生懸命にプレーするチームプレーヤーでした。ツポにはまると良いシュートを放っていました。

DFゾーンから強く出すプレーは、チームに影響を与えました。当時、リム（コーナーのアールを利用し、フェンスに沿ってパスを出すこと）で強く出すことはあまりない時代でしたが、大川は率先してやっていました。日本人からすれば、パスをきっちりつないでほしいとなりました。しかし、なるほどと思うところもありました。狭いリンクではDFゾーンからクリアすることが最初になります。そのためパワーもあり、慣れてきたリムを多く行っていたと思います。状況によっての使い分けの判断はでき、徐々にチームにリムは浸透していきました。（評：西武鉄道時代・青山勇人）

シュートは速いですし、得点は入れますし絡んでいました。ハートはすごくあり、常に声を出して、チームのために自分を犠牲にするタイプ。試合に出られなくても声を出して、一生懸命やるタイプでした。守りの面より点に絡むプレーの方が良かったですね。（評：コクド時代・高木邦男）

【日本リーグアワード】ベスト6：第36、37回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1994-1995	第29回	西武鉄道	2位	6	前後期各3回総当たり	3位※	22	4	7	11	7 / 14	ファイナル敗退	5	1	0	1	5 / 10
1995-1996	第30回	西武鉄道	1位	6	前後期各4回総当たり	2位※	40	9	28	37	26 / 54	優勝	3	2	0	2	3 / 6
1996-1997	第31回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	27	6	13	19	16 / 53	優勝	4	0	2	2	1 / 2
1997-1998	第32回	西武鉄道	4位	6	8回総当たり	4位	19	6	8	14	12 / 24	セミファイナル敗退	3	1	0	1	1 / 2
1998-1999	第33回	西武鉄道	3位	6	8回総当たり	2位	40	11	21	32	27 / 54	セミファイナル敗退	3	0	3	3	2 / 4
1999-2000	第34回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	30	6	5	11	15 / 30	優勝	4	0	4	4	2 / 4
2000-2001	第35回	西武鉄道	5位	6	8回総当たり	5位	40	11	13	24	32 / 64	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
2001-2002	第36回	西武鉄道	2位	6	8回総当たり	2位	40	13	19	32	22 / 44	ファイナル敗退	5	2	5	7	/
2002-2003	第37回	西武鉄道	2位	5	8回総当たり	1位	27	12	11	23	16 / 40	ファイナル敗退	4	2	2	4	/
2003-2004	第38回	コクド	1位	4	前後期各4回総当たり	1位※	23	5	15	20	10 / 20	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -
				計								計					
				308								31					
				83								8					
				140								16					
				223								24					
				183 / 397								14 / 28					

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第36、37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

ジョン・タッカー

John TUCKER

所属：コクド

ポジション：FW

生年月日：1964年9月29日

出生地：カナダ

【プロフィール】 OHLでプレーしていた1983NHLエントリードラフトでバッファロー・セイバーズから2巡目（全体で31位）指名を受ける。1983-1984シーズンから1995-1996シーズンまでの内、12シーズンにわたりNHLではバッファロー、ワシントン・キャピタルズ、ニューヨーク・アイランダーズ、タンパベイ・ライトニングでプレーし、656試合177ゴール259アシスト436ポイントをマークした。1991-1992シーズンと1996-1997シーズンはオーストリア、イタリア、スロベニアのチームで構成されたアルペンリーグ（イタリアリーグを含む）でもプレーした後、コクド入りした。現役引退後は、イタリアリーグ所属の古巣チームの監督などを務めた。

【レビュー】コクド入りした時はそれなりの年齢で、腰の手術もしていました。しかし、NHLオールスターにも出場した百戦錬磨のバリバリのスーパースターでした。一生懸命やる姿は練習から見せていました。長野オリンピックのシーズンのため、主力が抜けた状況の中、坂田（淳二）がタッカーの影響を一番受けました。坂田を育てたのはタッカーと言っても過言ではありません。

リーダーシップがあり、間合いや駆け引きは上手かったですね。プライドはもちろんありますが、上から見下す目線になることはなく、プライドを生かしてチームに溶け込み、みんなと親しく話す素晴らしい選手でした。

ちなみに、奥さんはモデルで、都内数カ所に10メートルサイズの特大ポスター飾られており、街で見かけると「マイワイフ」と言っていました（笑）。

【日本リーグアワード】最優秀選手：第32回／ベスト6：第32回／アシスト王：第32回／ポイント王：第32回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1997-1998	第32回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	39	27	47	74	16 / 53	優勝	5	2	6	8	0 / 0	
1998-1999	第33回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	23	21	20	41	11 / 30	優勝	9	7	10	17	2 / 4	
1999-2000	第34回	コクド	2位	6	6回総当たり	1位	24	14	22	36	/	ファイナル敗退	4	6	3	9	2 / 4	
						計	86	62	89	151	27 / 83		計	18	15	19	34	4 / 8

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第34回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

スティーブン・ツジウラ／辻占スティーブケン Steven TSUJIURA／Steven Ken TSUJIURA

所属：コクド

ポジション：FW

生年月日：1962年2月28日

出生地：カナダ

【プロフィール】 日系人プレーヤー。WHLのメディシンハット・タイガースなどでプレーし、1981NHLエントリードラフトでフィラデルフィア・フライヤーズから10巡目（全体で205位）指名を受ける。1982-1983シーズン以降はAHLのメイン・マリナーズやイタリアリーグ、スイスリーグ（NLA、NLB）のダボスなどでプレーをした後、1994-1995シーズンにコクド入り。1997年12月に帰化申請が認められ日本国籍を取得。1998年2月の長野オリンピックに出場した（4試合0ポイント）。現役引退後は、1998-1999シーズンから4シーズンにわたって日本代表監督を務め、世界選手権（トップディビジョン）や冬季アジア大会などで指揮を振った。代表監督としての世界選手権の成績は1分11敗と惜しくも白星を挙げることはできなかった。

【レビュー】 NHLからもドラフト指名を受けたことに加え、いろんなチームでもまれた経験もあり、辻占が一番チームに溶け込もうとしていました。サイズも日本人で、小さな体でプレーし続けていたのはすごいことで、誰もが彼をリスペクトしていました。日系人や外国人に対してもまとめ役としてリーダーシップを発揮していました。監督・コーチから発信があると、選手にとっては嫌なことでも、「やろう！」とみんなを導いてくれました。チーム入りした時はそれなりの年齢でしたが、老体に鞭を打って（笑）、練習も一緒にやりました。泥臭いプレーもしますし、ゴール前でも逃げません。悪い意味でなく嫌なことでも率先してやります。逆に汚いプレーはしません。メンタルが強く、体で表現していたプレーヤーで、数字以上の貢献がありました。プレーはもちろん、リーダーシップも人格も含めてチームへ与えてくれた影響は大で、功績を残してくれました。

引退後、日本代表の監督にもなりましたが、引退後即監督でしたから、選手と近すぎる面もあり、やりにくかったかもしれません（笑）。でも、人望があり、本当の人格者でしたので、誰も文句を言わず彼の指揮の下、戦いました。

【日本リーグアワード】 ベスト6：第29回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1994-1995	第29回	コクド	1位	6	前後期各3回総当たり	1位※	29	12	20	32	5 / 10	優勝	5	1	0	1	4 / 8	
1995-1996	第30回	コクド	3位	6	前後期各4回総当たり	1位※	36	18	22	40	18 / 36	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
1996-1997	第31回	コクド	3位	6	6回総当たり	3位	29	6	13	19	13 / 26	セミファイナル敗退	2	0	1	1	1 / 2	
1997-1998	第32回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	10	3	6	9	4 / 8	優勝	5	1	2	3	2 / 4	
						計	104	39	61	100	40 / 80		計	12	2	3	5	7 / 14

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

ジョエル・パーピック

Joel PRPIC

所属：コクド

ポジション：FW

生年月日：1974年9月25日

出生地：カナダ

【プロフィール】セント・ローレンス大学入学前の1993NHLエントリードラフトでボストン・ブルーインズから9巡目（全体で233位）指名を受ける。1993-1994シーズンから4シーズン、セント・ローレンス大でプレーした後、1997-1998シーズンにNHLデビューを飾った。NHLではボストン、コロラド・アバランチでプレーし、18試合3アシスト3ポイントをマークした。NHL以外ではAHLでプレーし、コクド入りした（アジアリーグのSEIBUプリンスラビッツでもプレー）。2009-2010シーズンからはオーストリア、イタリア、クロアチアのチームで構成されるEBELのKHLメドベシュチャク・ザグレブでプレー。またクロアチア代表として世界選手権ディビジョン2にも2012年と2013年に出場し、2013年にはクロアチアを優勝に導き、ディビジョン1に昇格させるとともに大会ベストFWにも選ばれた。その後、ACHでもプレーした。

【レビュー】暴れん坊でしたね（笑）。でも情熱はありました。実は一回、パーピックを怒って試合に出さなかったとがあります。NHLで彼はファイター、乱闘要員です。しかし、日本では助っ人です。相手チームは彼が退場するように挑発するなど仕掛けてきます。その仕掛けに乗ってしまうと、二人そろってペナルティボックス行きになります。しかも、彼は破壊力が違い相手をやっつけますから、ペナルティが重くなります。そのため、次に反則したら、「試合に出さない」と告げたのです。それまでのアイスホッケー人生で言われたことがないことでしたから彼は不思議がり、理由を尋ねてきました。「相手の選手を考えれば、（戦力的に）イコールの退場ではない。一緒に上がるとウチが損をする」と話したのです。それを理解し、彼は変わりました。それまではやりたい放題でした（笑）。

それでもそれまでのイメージがありますから、反則を取られてフラストレーションはたまっていたと思いますが、役割が変わったことを言い続けてプレーしてもらいました。

【日本リーグアワード】ベスト6：第38回／アシスト王：第38回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
2002-2003	第37回	コクド	1位	5	8回総当たり	4位	29	14	18	32	53 / 192	優勝	9	4	7	11	/	
2003-2004	第38回	コクド	1位	4	前後期各4回総当たり	1位※	24	10	19	29	30 / 131	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -	
						計	53	24	37	61	83 / 323		計	9	4	7	11	0 / 0

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

第1版：2026年3月15日・記

ライアン・フジタ／藤田キヨシ

Ryan FUJITA／Kiyoshi FUJITA

所属：西武鉄道→コクド

ポジション：FW

生年月日：1972年6月25日

出生地：カナダ

【プロフィール】日系人プレーヤー。WHLのサスカトゥーン・ブレイズでのプレー時代、1983年夏にカナダで行われた日本代表候補の23歳以下の強化合宿に参加。日系人選手の出場解禁となった1994-1995シーズンから日本リーグ出場を果たす。1997年12月には日本人への帰化が認められ、2カ月後に開催された長野オリンピックに出場。その後も、日本代表として、世界選手権を始めオリンピック予選や冬季アジア大会などに出場。オリンピックは4試合1ゴール1アシスト1ポイント、世界選手権（トップディビジョンとディビジョン1）は6回出場29試合7ゴール12アシスト19ポイントをマーク。2003-2004シーズンにはコクド（SEIBUプリンスラビッツを含む）へ移籍し、4シーズン（アジアリーグを含む）プレーした。

【レビュー】チームに加入した当時、全然、練習をしません。試合に出ないと力を発揮しないタイプでした。攻守ともに素晴らしかったです。攻めではシュートが良かった。また、オフenseゾーンに入ったらゴールに向かっていき、天性の得点嗅覚がすごかったです。守りも、バックチェックは一生懸命やりますし、行ける時はチェックもがっつり行きます。DFゾーンでも守りの指示を出していました。得点だけでなく守りも訓練されていて、FWとしての守りはしっかりやっていました。

当初はやんちゃな面もありましたが、晩年は先生みたいな存在になり、若手などに良い影響を与えており、藤田と組んだ若手をはじめ誰もが慕っていました。

サイズが小さかったですから、時代が違っていたら、NHLに行けたかもしれません。（トム・）カーバース曰く、「フジタが一番上手い。もう少し頑張ればNHLに行けたのに」。グレン・ウイリアムソンコーチも「もう少し練習をやってパワーを付けたらNHLに行けた」と話していました。攻めも守りもすべて、日本で一番上手いと思いました。（評：西武鉄道時代・青山勇人）

敵から見れば、藤田は嫌な選手でした。サイズは小さく、パワーがすごくあるわけではありませんが、スキルは高く、ポイントゲッターのすごい選手でした。

彼は身長ぐらいの長いスティックを使っていました。見えないところでスティックを使った反則的なプレーをするズルさも持っていました。でもスティックさばきや小技などが上手かったです。泥臭いゴールを含め得点できることは全部やるなど、存在価値をアピールするハングリーさはすごかったです。

西武鉄道からコクドに来て彼とは結構話をしました。彼は自分の考え方を話してくれました。考え方が異なると言い争うのではなく、助言的な方法論など意見を出し、何度も話し合いました。（評：コクド時代・高木邦男）

【日本リーグアワード】ベスト6：第29、30、37回／得点王：第29、30回／アシスト王：第31回／ポイント王：第29、30、31回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ										プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1994-1995	第29回	西武鉄道	2位	6	前後期各3回総当たり	3位※	30	25	21	46	22 / 44	ファイナル敗退	5	1	0	1	2 / 4	
1995-1996	第30回	西武鉄道	1位	6	前後期各4回総当たり	2位※	40	44	34	78	31 / 70	優勝	3	1	4	5	0 / 0	
1996-1997	第31回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	30	22	33	55	30 / 60	優勝	4	0	4	4	10 / 20	
1997-1998	第32回	西武鉄道	4位	6	8回総当たり	4位	10	7	15	22	6 / 12	セミファイナル敗退	3	4	1	5	5 / 10	
1998-1999	第33回	西武鉄道	3位	6	8回総当たり	2位	30	27	26	53	27 / 62	セミファイナル敗退	0	0	0	0	0 / 0	
1999-2000	第34回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	30	25	22	47	24 / 48	優勝	9	7	6	13	8 / 28	
2000-2001	第35回	西武鉄道	5位	6	8回総当たり	5位	40	20	30	50	31 / 78	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
2001-2002	第36回	西武鉄道	2位	6	8回総当たり	2位	40	26	31	57	25 / 50	ファイナル敗退	5	1	4	5	/	
2002-2003	第37回	西武鉄道	2位	5	8回総当たり	1位	29	24	22	46	16 / 53	ファイナル敗退	4	1	0	1	/	
2003-2004	第38回	コクド	1位	4	前後期各4回総当たり	1位※	19	8	7	15	11 / 30	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -	
				計										計				
				298 228 241 469 223 / 507										33 15 19 34 25 / 62				

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第36、37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

クリス・ブライト／ブライト クリス

Chris BRIGHT

所属：西武鉄道→コクド

ポジション：FW

生年月日：1970年10月14日

出生地：カナダ

【プロフィール】1987-1988シーズンからWHLのムースジョー・ウォリアーズで3シーズンプレー。1990NHLエントリードラフトでハートフォード・ホエラーズから4巡目（全体で78位）指名を受ける。その後、1994-1995シーズンまではAHLのスプリングフィールド・インディアンズやECHLのサウスカロライナ・スティングレイズなどでプレー。この間、カナダ代表としてもプレーしており、1995世界選手権に出場し、銅メダル獲得に貢献するとともに8試合3アシスト3ポイントをマークした。1995-1996シーズンからは西武鉄道とコクドでプレー。2003年には日本国籍を取得し、2004世界選手権には日の丸のユニホームを着て出場。6試合2ゴール3アシスト5ポイントをマークした。日本では2004-2005シーズンのコクド（アジアリーグ）でのプレーがラストシーズンとなった。その後、ドイツ、スイス（NLA）、スロベニアでプレーした。

【レビュー】チームカナダにいた時から教育されていて一生懸命プレーする選手でした。ツーウェイ・プレーヤーで、攻めも守りもできました。チームカナダ時代、DFもやっていたので、スペシャルセットを組んだ際、DFに起用しました。日本国籍を取りましたが、日系人を含めブライトが日本語力では一番でしたね。（評：西武鉄道時代・青山勇人）

根っからのCFで、バックスケータリングは今一つでしたが、守りのコツや間合いなどを心得ていたため、相手に攻められても、フォアチェックで方向付けて寄せていく守りでピンチにならないようなプレーはしていました。DFからのスラップショットなどシュート力があり、ワнтаイムなどを含めキーマンになっていました。DFがFWをやることはそれまでもありましたが、FWがDFをやるなど、日本のアイスホッケーの考え方など、ブライトが来て、変わった面もありました。ブライトをDFにしてのスペシャルセットは西武鉄道の得意技でしたね。（評：コクド時代・高木邦男）

【日本リーグアワード】最優秀選手：第31、38回／ベスト6：第31、34、36、38回／得点王：第31、34、38回／アシスト王：第34、35回／ポイント王：第34、38回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1995-1996	第30回	西武鉄道	1位	6	前後期各4回総当たり	2位※	40	27	22	49	35 / 94	優勝	3	4	5	9	0 / 0	
1996-1997	第31回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	30	25	24	49	26 / 60	優勝	4	5	2	7	3 / 6	
1997-1998	第32回	西武鉄道	4位	6	8回総当たり	4位	40	28	27	55	32 / 64	セミファイナル敗退	3	1	0	1	4 / 8	
1998-1999	第33回	西武鉄道	3位	6	8回総当たり	2位	38	28	31	59	29 / 84	セミファイナル敗退	3	1	2	3	2 / 4	
1999-2000	第34回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	30	27	27	54	27 / 73	優勝	9	5	7	12	5 / 10	
2000-2001	第35回	西武鉄道	5位	6	8回総当たり	5位	40	22	40	62	35 / 86	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
2001-2002	第36回	西武鉄道	2位	6	8回総当たり	2位	40	28	30	58	30 / 81	ファイナル敗退	5	6	2	8	/	
2002-2003	第37回	西武鉄道	2位	5	8回総当たり	1位	30	15	25	40	24 / 64	ファイナル敗退	4	0	3	3	/	
2003-2004	第38回	コクド	1位	4	前後期各4回総当たり	1位※	24	23	16	39	10 / 20	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -	
							計	312	223	242	465	248 / 626	計	31	22	21	43	14 / 28

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第36、37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

クリス・マリヌッチ

Chris MARINUCCI

所属：コクド

ポジション：FW

生年月日：1971年12月29日

出生地：アメリカ

【プロフィール】1990-1991シーズンからNCAAのミネソタ大学ダルース校でプレーし、ホビー・ベイカー賞（NCAAで最も優れた選手に贈られる賞）を受賞するなどトッププレーヤーとして活躍。1990NHLエントリードラフトではニューヨーク・アイランダーズから5巡目（全体で90位）指名を受ける。NHLではNYアイラダースとロサンゼルス・キングスでプレーし、13試合1ゴール4アシスト5ポイントマーク。NHL以外ではIHLでプレーしコクド入りした。1996-1997シーズンにはアメリカ代表として世界選手権に出場し、8試合1ゴール1ポイントマークしている。コクド退団後は、ドイツ、スウェーデン、ノルウェーのリーグやECHLなどでプレー。ノルウェーのスターハマー在籍中にはノルウェー選手権で優勝した。現役引退後は高校生チームの監督などを務めた。

【レビュー】知名度はそれほど高くなかったですが、真面目な選手でした。縁の下の力タイプで、特筆するスピードがあるわけではないですが、オールマイティに活躍してくれました。前面に出てガンガンやるのではなく、愚痴も言わず組織に入って一生懸命やって結果を出すタイプ。コクドのチームカラーに合っていました。ある意味、インパクトに欠けていたかも知れませんが（笑）、しっかり活躍して、実は数字は残しています。ラフプレーもしないですし、ジェントルマンでした。

【日本リーグアワード】ベスト6：第35回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
2000-2001	第35回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	40	29	30	59	/	優勝	6	5	7	12	0 / 0
						計	40	29	30	59	0 / 0	計	6	5	7	12	0 / 0

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第35回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

第1版：2026年3月15日・記

クリス・ユール／ユール クリス

Chris YULE

所属：コクド

ポジション：FW

生年月日：1975年3月29日

出生地：カナダ

【プロフィール】日系人プレーヤー。AJHLでプレーを経て、19歳の時にコクド入り。1997年12月に日本国籍を取得し、長野オリンピックから日本代表入りを果たす。世界選手権に8回出場（トップディビジョンとディビジョン1合計）する他、オリンピック予選や世界選手権（トップディビジョン）予選、冬季アジア大会などにも出場した。オリンピックでは4試合0ポイント、世界選手権では40試合11ゴール20アシスト31ポイントをマークした。アジアリーグではコクド（SEIBUプリンスラビッツを含む）、日本製紙クレインズで2012-2013シーズンまでプレーした。

【レビュー】カナダのジュニアのキャリアだけで、20歳になる前にコクド入りしましたから、日本の新人選手と同じ感じでした。何も分からない状態から育てていきましたので、最初から日本人として接していました。日本独特の「先輩後輩」の世界の中で、苦労したと思いますが、持って生まれた才能、スピードがあり、プレーは最高でした。ただ、調子の波はありました。しかし、年齢を重ねると調子の波はなくなり、持ち味のスピードを生かし結果を残しました。そして、最後の最後まで長くチームにいてくれました。

【日本リーグアワード】最優秀選手：第35、36回／最優秀新人：第29回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ							
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)			
1994-1995	第29回	コクド	1位	6	前後期各3回総当たり	1位※	28	23	7	30	10 / 20	優勝	5	2	1	3	2 / 4		
1995-1996	第30回	コクド	3位	6	前後期各4回総当たり	1位※	39	27	18	45	14 / 28	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -		
1996-1997	第31回	コクド	3位	6	6回総当たり	3位	22	10	12	22	12 / 24	セミファイナル敗退	2	0	0	0	3 / 6		
1997-1998	第32回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	0	0	0	0	0 / 0	優勝	0	0	0	0	0 / 0		
1998-1999	第33回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	38	10	13	23	16 / 32	優勝	9	1	2	3	7 / 14		
1999-2000	第34回	コクド	2位	6	6回総当たり	1位	20	7	8	15	4 / 8	ファイナル敗退	7	3	8	11	4 / 8		
2000-2001	第35回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	38	20	22	42	12 / 24	優勝	6	6	4	10	4 / 8		
2001-2002	第36回	コクド	1位	6	8回総当たり	4位	33	28	16	44	15 / 30	優勝	7	6	5	11	/		
2002-2003	第37回	コクド	1位	5	8回総当たり	4位	31	19	17	36	23 / 48	優勝	9	8	7	15	/		
2003-2004	第38回	コクド	1位	4	前後期各4回総当たり	1位※	10	6	5	11	6 / 12	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -		
							計	259	150	118	268	112 / 226		計	45	26	27	53	20 / 40

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第36、37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）